



「国際協力カレッジ 2022」 事業実施報告書

<目次>

- 1、本事業の目的・目標および実施概要(プログラム内容)
- 2、参加者アンケート結果
- 3、出展団体アンケート結果
- 4、アンケート結果の分析
- 5、今後に向けての課題・提案や運営上の工夫

1、本事業の目的・目標および実施概要(プログラム内容)

【本事業の目的および目標】 *業務仕様書より抜粋

「国際協力カレッジ」は、中部地域において国際的な課題に関心を持つ若年層を中心とする人々が国際協力の現場で働く人の声に触れ、考え、共に動き始める場として2006年度より実施しており、本年度で17回目を迎えた。

この間国際社会においては、2015年9月の国連サミットにおいて「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択された。2030アジェンダでは「誰一人取り残さない」を理念として、一人ひとりに焦点を当て、開発途上国のみならずあらゆる国々で取り組むことが必要とされている。また民間企業や市民社会の役割が益々高まり、あらゆるステークホルダーが連携すること(グローバル・パートナーシップ)が求められている。

上記を踏まえ、「国際協力カレッジ2022」は国際協力に関心を有する学生や市民を主なターゲットとして、世界の現状や取り組み、SDGsの達成に向けて活動する団体(民間企業、NGO、自治体や市民団体など)の紹介などを通じ、国際協力の必要性や課題を理解し、参加者一人ひとりが具体的な行動に移すきっかけを提供することを目的として、以下のとおり実施した。

今回は新型コロナウイルス感染拡大を予防すべく、全面オンラインにて実施した。



【本事業の実施概要(プログラム内容)】

- ・日時:2022年12月10日(土)13:00～17:00
 - *プログラム終了後、別途交流ルーム 17:30 まで
- ・方法:オンライン
- ・主な対象者:国際協力分野におけるボランティア・インターン・職員に関心がある、学生・若い世代
- ・参加者数:60名&出展団体:8団体
- ・主催:独立行政法人国際協力機構中部センター(JICA 中部)
 - 事務局:特定非営利活動法人 名古屋 NGO センター





時間	内容
受付・案内	<p>オンラインイベントにありがちなスタート前の無声・静止画の時間を有効活用し、パワーポイントにて、当日のスケジュールや参加にあたってのお願いや案内を配信した。</p>  
開会	あいさつ・オープニング
<p>13:00～ 13:20 (20分)</p>	<p>▼開会の挨拶</p> <p>【JICA 中部 市民参加協力課 課長 酒本和彦氏】 主催者代表として、酒本課長より国際協力カレッジの概要を説明し、チャットなどを通して積極的な参加を呼びかけ、開会の挨拶とした。</p>  <p>全体司会</p> <p>【ココアゴラ 名古屋 NGO センター理事 市野将行】</p> <p>▼アイスブレイキング(参加者のチャットの練習を兼ねて)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、今接続している場所(地域)について 2、国際協力カレッジへの参加動機について 
1 時間目	講義『「誰ひとり取り残さない」世界を実現するために～仕事としての NGO, JICA, ソーシャルビジネス～』
<p>13:20～ 14:50 (90分)</p>	<p>1 時間目 講義スタート</p> <p>【進行:名古屋 NGO センター 田口裕晃】</p> <p>▼進め方の説明 進め方について説明をした。</p>  <p>【JICA】榎田由衣(ますだ・ゆい)さん JICA 中部 市民参加協力課 専門嘱託</p> <p>大学卒業後の2014年～2016年に青年海外協力隊としてスリランカでボランティア活動を行う。その後一般企業での勤務を経て2019年から JICA 中部で海外協力隊業務に携わる。現在は草の根技術協力事業を担当し、中部地域の大学や NGO、自治体などが途上国で活動するサポートを行っている。</p>



【ソーシャルビジネス】池島英総(いけしま・ひでふさ)さん
株式会社 SHANTI SHANTICOFFEE FARM 代表取締役

ネパールでコーヒー農園を経営。日本で、小売卸業およびカフェの経営。珈琲生産組合技術指導者に就任。2014年ネパール最大の新聞会社にて「ネパールで活躍する外国人農業者 10選」に選ばれる。2015年テレビ朝日系列「世界の村で発見こんなところに日本人」、2018年NHK WORLD ドキュメンタリー「SIDE by SIDE」に出演。



【NGO】後藤美樹(ごとう・みき)さん
外国人ヘルプライン東海 代表

大阪外国語大学院修了(フィリピン語専攻)。多文化ソーシャルワーカー、コミュニティ通訳(フィリピン語)。1995年の阪神淡路大震災より、在日外国人の支援活動を開始。DVや児童虐待の相談員との「二足の草鞋」を経て、4月から晴れてNPOの専従になる。フィリピン人移住者センター(FMC)事務局スタッフも務める。

◆ゲストトーク:現在のキャリアに至るまでの経緯やきっかけ、たいへんなこと、やりがいについて、それぞれのゲストがプレゼンテーション資料を基に話した。

<当日発表資料(抜粋)>

●榎田さん



●池島さん



●後藤さん





◆質疑応答:進行役や、ZOOM のチャットにて参加者から寄せられた質問に、ゲストが順番に回答した。

・以下、質問内容と回答(一部抜粋)

Q.スリランカに行った当時は、どのくらいの語学力だったか?

A.梶田:スリランカは、シンハラ語が公用語。出発前に3か月ほど語学訓練を日本国内でやっていた。日常会話くらいはできるようになってから現地に行った。現地に行ってから活動の中で伸ばしていった。

Q.スリランカの環境問題で重要視されている(急ぎ改善が必要な事項)問題は何か?

A.梶田:私が現地で活動していた時は、廃棄物の問題が大きかった。家庭ごみの収集、分別が浸透していない、集めたごみもゴミ山に投棄するだけとなっている。どんどんたまっていくだけになっている。この問題はスリランカだけではなく、開発途上国の多くで問題となっている。

Q.ネパール語を話せない中でネパールへ行こうと踏み切れたのはなぜか?

A.池島:語学は、あくまで一つのスキルだと考えている。できるに越したことはないが、できなくても何とかなる。現地で活動していたら、言葉が後から付いてくる。最初は英語でやりとりしていたが、ネパール語を徐々に覚えていった。

Q.独特のペースのネパールの皆さんと共に働く中での苦労などは無かったか?

A.池島:ネパールの中にも色々な人がいる。ネパールのどの人と話すかで変わってくる。国によって特色は多少あるけど、個人によって考え方が違うと考えている。ネパールで活動するときの現地の人たちに「自分も常識を半分壊してやるから、みんなも常識を半分壊してやろう」と話していた。

Q.日本人として暮らしていると分からないことがあると話があったが、どのようなことが変だなと感じたか?

A.後藤:行政の窓口で書類を書くのだが、日本の書類は枚数が多い。外国の方だと自分で書くのが難しいので、サポートしたこともある。文書文化が日本にある、もちろんいい面もあるが、外国の方は大変だと感じている。

Q.外国の方からはどんなことに関する相談や助けが必要なことが多いのか。多岐にわたるのか。ある程度限られているのか。

A.後藤:多岐にわたる。私たちが関わるケースは問題が複雑になっていることが多いが、在留資格に関する問題が絡んでいることは多い。在留資格を継続させたいが、どうしたらいいか?などの相談が多い。



民族 Ethnic Group
 ・多民族国家…異なる言語や地域語を持つ100以上の民族



経済 Economy ■ 主要産業は農業、繊維産業、観光業

- ・GDP約243億ドル（2017/2018年度）一人当たりGDP約998ドルの後発開発途上国（LLDC）。就労人口の約3分の2が農業に依存。
- ・各国政府・国際機関より多額の開発援助を受けている。




休憩 14:30~14:40 (10分)

「SDGs.TV」サイトの「パートナーシップで目標を達成しよう」から以下の動画をピックアップして配信しました。

https://sdgs.tv/tg_mov/goal17

2 時間目 多様な NGO の活動紹介を聞こう!「今日からスタート!国際協力はじめの一步」

【司会進行】名古屋NGOセンター職員 村山佳江

・1団体につき10分間で活動紹介をした(全8団体)。*質疑応答はチャットのみとして受け付けたが質問は特になかった。

<進め方>

1団体10分×7+1団体による活動紹介

- 発表の順番
- ①アイキャン
- ②ル・スリール・ジャボン
- ③ホープ・インターナショナル開発機構
- ④イカオ・アコ
- ⑤セイブ・イラクチルドレン・名古屋
- ⑥キャンヘルプタイランド
- ⑦キャリアteens (名城大学附属高校国際クラス)
- ⑧名古屋NGOセンター

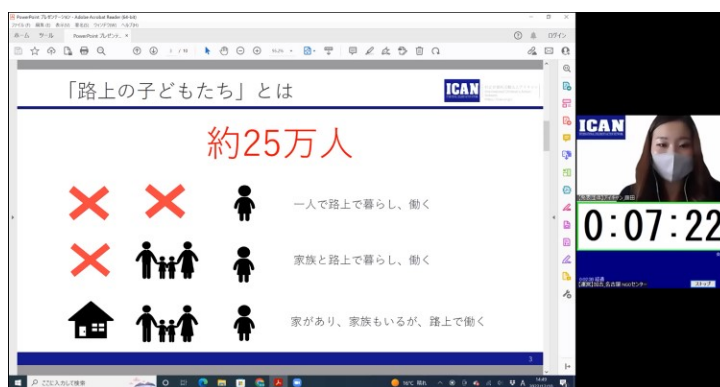
14:40

~

16:10

(90分)

① 【SDGs 目標1 貧困をなくそう】 アイキャン





② 【SDGs 目標4 質の高い教育をみんなに】 ル・スリール・ジャパン

どれだけの子どもが
小学校を卒業するの？
できるの？

サブサハラアフリカの
平均（赤線）と
比較すると？

(出所：世界銀行)

0:07:03

国/地域	卒業率 (%)
世界 (2019年)	~80
サブサハラアフリカ (2019年)	~55
トーゴ (2019年)	~85
シエラレオネ (2019年)	~75
セネガル (2019年)	~80
ナイジェリア (2010年)	~75
ニジェール (2019年)	~65
モーリタニア (2019年)	~75
マリ (2017年)	~65
リビア (2017年)	~75
ギニアビサウ (2010年)	~75
カンビア (2019年)	~85
イニア (2016年)	~75
カーナ (2018年)	~95
カーボベルデ (2018年)	~95
コートジボワール (2019年)	~85
ブルキナファソ (2019年)	~75
パナマ (2019年)	~95

③ 【SDGs 目標6 安全な水とトイレを世界中に】 ホープ・インターナショナル開発機構

5. カンボジア事業のようす

水の供給
【BEFORE】事業前 水源池
【AFTER】井戸 完工後

稲作プロジェクト
アニマルバンク

学校建設・給食支援
学校建設支援
給食支援

0:04:13

④ 【SDGs 目標13 気候変動に具体的な対策を】 イカオ・アコ

コロナ禍後、初めての現地インターンの受け入れ

インターン生の活動内容

- 植林活動
- 炭焼き調査の手伝い
- SNSへの活動の投稿 など

0:02:57

⑤ 【SDGs 目標16 平和と公正をすべての人に】 セイブ・イラクチルドレン・名古屋

* 支援の實り *

2022.10 イラク訪問

モスルで開院した
シェイマ医師の病院
女性と子どものための
心エコークリニック
「報告書」は日本での書式で作成

ワサン医師(2013研修)
若い医師とのカンファレンス

バスラ小児病院 腫瘍科の壁の
「生命の樹」
回復した子供たちの写真
患者たちの励み

今年3月にバスラに完成「がん専門病院」
アサード (2004年研修) が責任者

0:03:32

⑥ 【SDGs 目標4 質の高い教育をみんなに】 キャンヘルプタイランド



⑦ 名城大学附属高等学校 キャリア teens


なぜ布ナブキン？

繰り返し
使えて
経済的

自分で
作れて
持続可

ごみが
減って
環境良

月経用品の普及と月経に関する知識を深めることで
女兒が教育を受ける&将来を自由に選択できる
このプロジェクトを行うことで
自分自身のキャリア選択&日本の状況を見直す



⑧ 【SDGs 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう】 名古屋 NGO センター (外務省 NGO 相談員)

NGO相談 NGO相談員とは？

外務省と全国のNGO協働事業

①NGO相談：市民からの、NGOの活動や団体についての相談、NGOの設立やマネジメントについての相談などに答えます。

②出張サービス：自治体や学校などが実施する国際協力関係のイベント等にて、出展や講演を行います。

①相談料、②出張サービス料（旅費も含め）は無料です。
地域にかかわらず、難民、教育支援など、それぞれ得意な分野がありますので、詳しくは相談員リストをご覧ください。
(外務省のホームページに記載されています。)





休憩 16:10~16:15 (5分)

4 時間目	全体会・ふりかえり／あいさつ、アンケート記入
16:15~ 16:50 (35分)	<p>◆ふりかえり</p> <p>参加者、ゲスト3名、出展団体と交え4-5人程度でグループを作り、以下について話し合い、振り返りを行った。</p> <p>① 今日学んだこと&印象に残っていること</p> <p>② いまから行動しようと思っていること</p> <p>感想の全体共有の場面では、参加者、団体から次のような感想があった。</p> <p>「東海地域にこれだけの団体がいて、世界の起きている様々な課題に取り組んでいることを知ることができ、自分たちがやっている活動とどうつながっているかを考えることができた。様々な視点があって、勉強になったので、今後の活動につなげていきたい」</p>



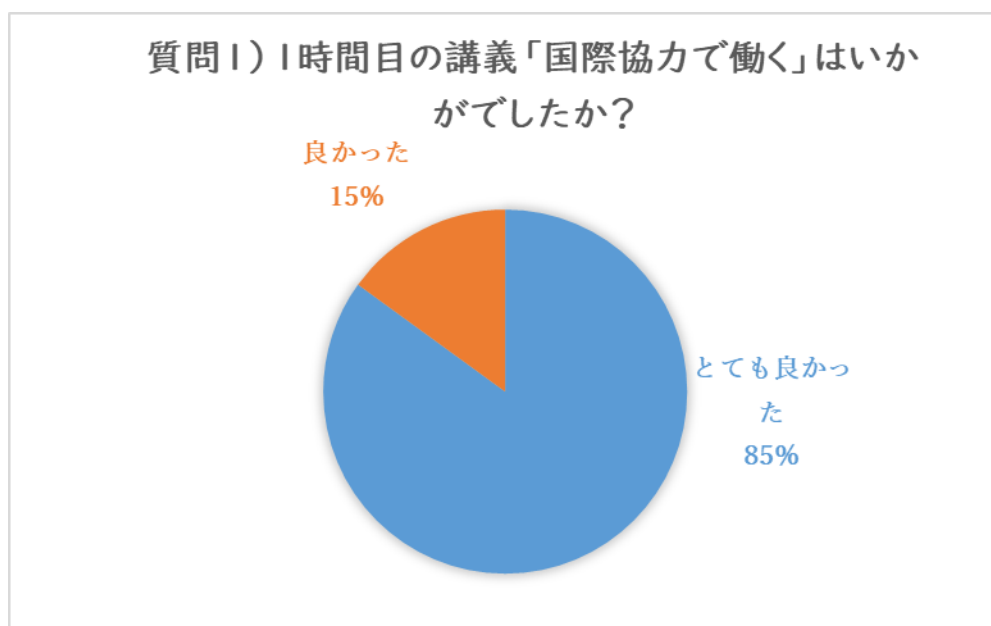
	<p>「キャリア teens の話を聞いて懐かしい気持ちになった。国際協力の分野はどんどん若い人が減っているので、嬉しく感じた。ぜひ、現地に行ってみてほしい」</p> <p>「ゼミの先生からの紹介で参加した。国際協力にも様々な視点があることを知った。現在コロナ禍でオンラインを活用することが多いが、現地に足を運んでみたいと思った」</p> <p>「開発経済学のゼミに所属している。自分が関われるポイントがたくさんあると知ることができた。池島さんが言っていた“小さい世界の常識にとられるのはもったいない”という言葉に感銘を受けた」</p> 
<p>16:50～ 17:00 (5分)</p>	<p>◆閉会のあいさつ</p> <p>(特活)名古屋 NGO センター 事務局長 戸村 京子</p> <p>長時間となりましたが、多くの方に参加していただき、国際協力に触れる機会を持たたことを大変貴重に思っている。ゲストの3名の方も率直に経験を語って下さった。各団体もそれぞれ魅力的な発表をありがとうございました。10代や20代の参加が多くあり、今後の様々な道を歩むことに期待したいと思っている。寄り道してもよいし、自分のやりたいことを探求してもよい。まずは世界を見て、知ってもらい、これから活動に移していただきたい。</p>   <p>◆アンケート記入&今後の案内</p>
<p>17:00～ 17:30 (30分)</p>	<p>交流ルーム</p> <p>ゲストや出展団体に聞けなかったこと、個別に対応するブレイクアウトルームを設置した。</p>

(注意) 本報告書の掲載写真に関しましては、特に参加者が特定できる写真の取り扱いにはご注意ください。



2、参加者のアンケート結果

参加者・出展団体共にアンケートを配布し、20名より回答を頂いたものを集計した結果である。



質問2) 1時間目(講義)で印象に残った話等があれば教えてください。またよろしければ、問1の回答の理由を教えてください。

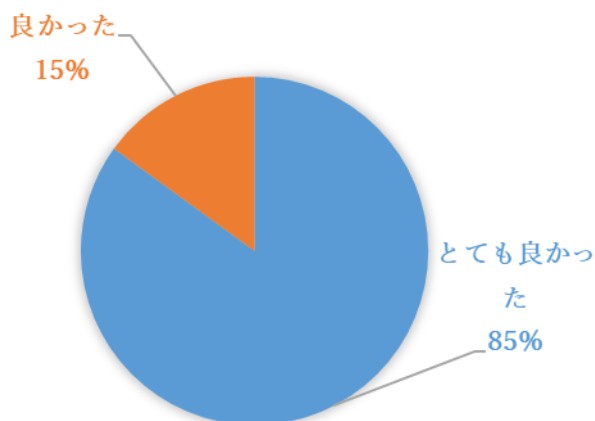
- ・ 榊田さんの青年海外協力隊に入隊したきっかけを聞き、きっかけはいろんなところにあるんだなと思いました。
- ・ 池島さんのバックパックのお話を伺った際にお話されていた「小さい世界の常識にとらわれるのはもったいないなあ」というお言葉に大変感銘を受けました。
- ・ 国際協力に携わっている方のお話を聞く機会はなかなかなく貴重なので、参加してよかった。また、御三方からのアドバイスで、私が本当にやりたい国際協力を本気で目指してもいいんだ、行動していく事で必ず変えられるんだ、と勇気づけられた。
- ・ 後藤さんの『日本人が日本で暮らしているだけではわからない理不尽さが、沢山あることに気付いた』とのお言葉でした。
- ・ 池島さんにチャットで質問させていただきました。「お互いの頭の中を半分壊して、それぞれ合わせよう(ひとつの価値観を押し通そうとしてもダメ)」というご回答が心に残りました。
- ・ 異なる価値観の人と関わることのハードルを、自分自身で高くしていたことに気づくことができました。
- ・ 大好きな国に、旅ではない形でも関わりたい、という思いが強くなりました。
- ・ 榊田さん、池島さん、後藤さん、それぞれが異なる切り口で国際協力に携わっておられる方たちでしたので、こういう関わり方もあるんだ、とそれぞれのお話がとても参考になりました。
- ・ 後藤さんの、書類の多さのお話が興味深かった。
- ・ 池島さんのお話の中で、「今知識があるかどうかはたいした問題ではない。やりながら身につけていけばいい」という言葉が印象に残りました。今までは、知識を身につけてからはじめよう。とっていて一歩を踏み出



すまでに時間がかかっていました。でもそれでは限りある時間を有効に使えずもったいないと思いました。また、どうして私は今までそう考えていたのかを分析してみました。私は失敗を恐れていたことに気づきました。失敗したくないから知識を身につけてから始めよう。と思っていたようです。

- ・ 様々な気づきをありがとうございました。
- ・ ネパールコーヒーのソーシャルビジネスをされている方の事業展開が速く、ビジネスベースの人はこういうところが違うんだなあと思いました。
- ・ バックパッカーを続けていると、仲良くなる現地民の方が似たような方々になってくるという言葉が印象的でした。自分の未知のものを知るために外に向かうのも一つの手手段だけど、そればかりではなく、自分で新しいものを生み出していくことが最後には必要になってくるのかなと感じました。
- ・ 例えばエベレストを現地ではサガルマータと呼んだりといった文化に注目してみることの大切さを学んだ。また、印象に残った言葉がいくつかあり、よそ者であることを忘れないこと、距離感が大切だということ。この2つの言葉は、現地に暮らして事業を展開しているからこそ「言葉の重み」があると感じた。
- ・ コーヒー豆栽培のおはなし。言語の壁はない。

質問3) 2時間目の団体紹介「多様なNGOの活動紹介を聞こう!」はいかがでしたか?

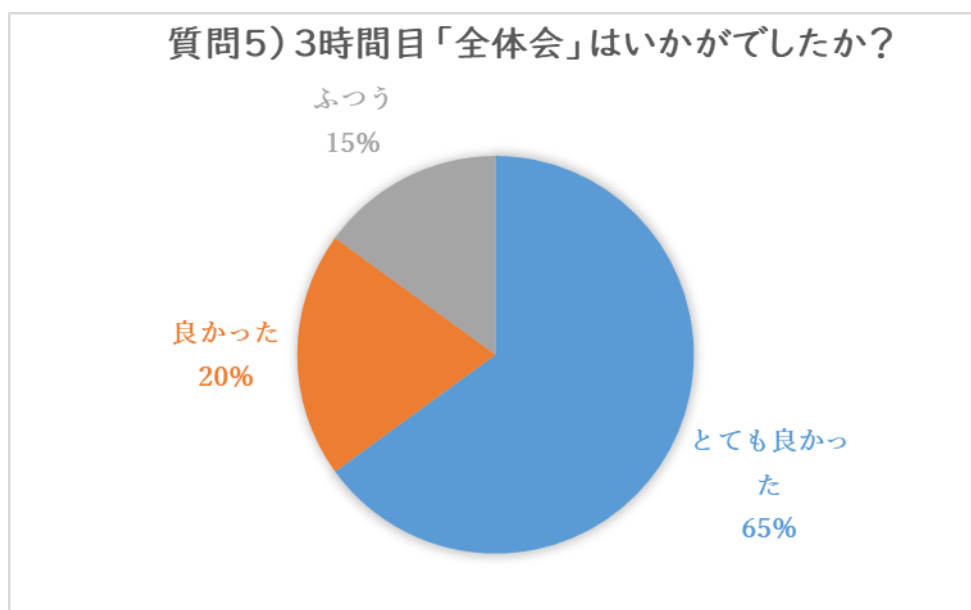


質問4) 2時間目(団体紹介)で印象に残った話や今後関わってみたい団体等があれば教えてください。またよろしければ、問3の回答の理由を教えてください。

- ・ こんなにも多くの団体があり、高校生の頃から活動されている方々がいること、小さなことからでも簡単に世界に繋がれるということ、我々の生活している常識がいかに恵まれているのかということを知ることができ、今、できることについて考えるいい機会になりました。
- ・ **全て知らない団体だった。早速SNSをフォローした。**これらの中にも私のやりたいことと、スキルや経験のない私でもできるものがきっとあると思うと、モチベーションが上がった。エコツアーやボランティア留学、青年海外協力隊などとは異なり、やる気があれば地元にいながら気軽に参加できるものなので、在学中にどこかに参加してみようと思った。



- ・ 若い方の熱い気持ちがとても眩しかったです。ご自分達なりに勉強や情報収集に努められ、視野を広げようと努力されている姿勢に刺激を受けました。
- ・ JICA 中部で名古屋 NGO センターのチラシ (NGO 一覧) をいただきましたが、**チラシを一読しただけでは分からなかったそれぞれの団体の想いや、具体的活動、成果などを細かく知ることができとても良かったです。**
- ・ キャンヘルプタイランドさんが気になっています。
- ・ 初めて知る活動が多かったから。
- ・ **アイキャンさんでボランティアをしてみたいと思っています。**
- ・ 今まで知らなかった団体さんの活動を知ることができ、とてもおもしろく拝聴しました。他にも興味のある団体さんがあり、ボランティアとして関わりたいと思いました。しかし、本業もあるため、今回はアイキャンさん 1 つに絞ることにしました。
- ・ 中部地方で活動されている色々な団体の話が聞けてよかったです。どちらも、**どんな関わり方ができるのか、具体的に話すという点で統一されていて、このカレッジの企画の筋が通っていることが印象的でした。**
- ・ それぞれの**団体が情熱や信念を持って活動していることが発表から伝わってきたから。**



質問6) 3 時間目「全体会」で印象に残った話等があれば教えてください。またよろしければ、問 5 の回答の理由を教えてください。

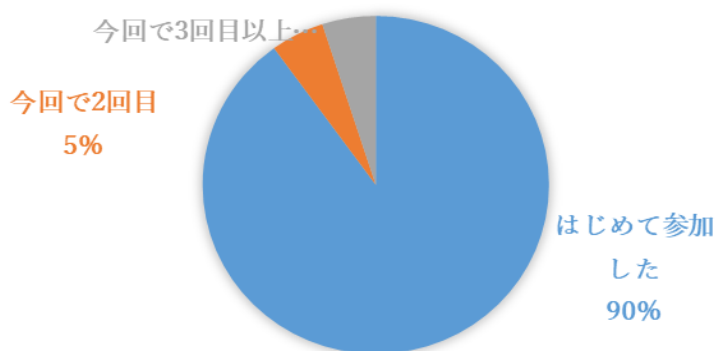
- ・ 色々な方の色々な意見、見方、感じ方を知ることができ、よかったなと思います。
- ・ **高校生から社会人の方まで幅広い年代・職業の方々が参加していて新鮮だった。**他の人の意見を聞いて良かった。
- ・ シャッフルでいろんな方のお話を伺えたのは良かったです(^)ただ、**もう少しディスカッション出来るくらいの時間が欲しかったです。**
- ・ **若い世代の参加者が多かったのが印象的でした。**
- ・ 自分も学生時代に、国際協力に興味を持ちつつも、具体的なイメージがつかめず行動に移せないまま、普通



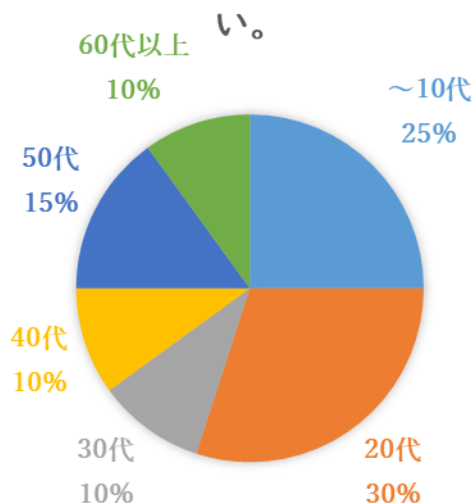
に就職して15年ほど経ち、改めてやっぱり国際協力に関わりたい、と原点に戻ってきました。

- ・ 最近の若者は内向きだ、と聞いていましたが、このような場がもっと増えて、国際協力に興味を持つ若い方が、一步を踏み出すきっかけがもっと増えればいいなと強く思いました。
- ・ 一回のルームでの対話時間がもう少し長いと良かったかな?と思いました
- ・ **他の参加者の方々と感想をシェアできたのは、とてもおもしろかったです。**
- ・ 申し訳ありませんが、電波が悪くて喋ろうとしたら回線が切れてしまったため詳しいことは分かりませんでした。メールでもその旨お伝えしましたが連絡が届かなかったようなのでこの場をお借りしてお詫び申し上げます
- ・ うまく喋れなかったが、自分のグループに自分より年下の人たちがいて驚いたのと同時に、熱い志が垣間見えて良かったと思う。
- ・ **全員が発表してよかった**

質問7) 「国際協力カレッジ」への参加経験を教えてください。



質問8) 差し支えなければ年代をお聞かせ下さい。





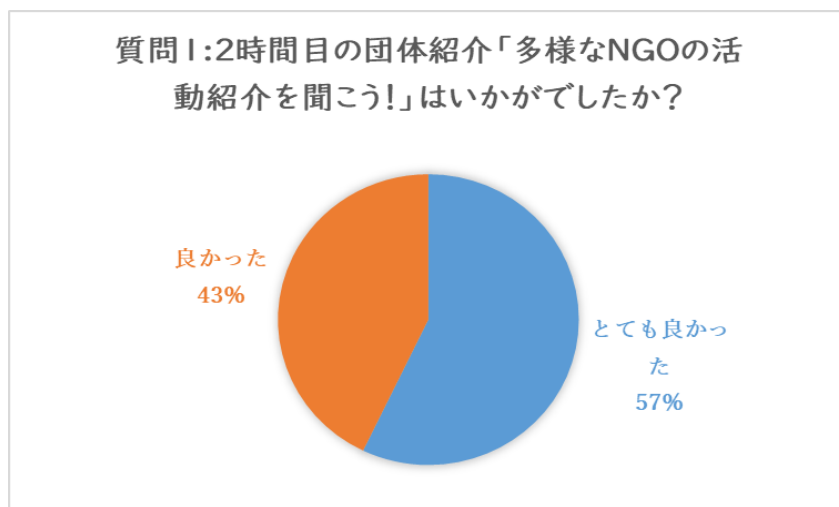
質問9) 本日のカレッジの感想やお気づきの点、また、今後参加してみたい企画のアイデア等があればご記入ください。

- ・ 今日ここに参加したことが私にとって第一歩でした。さっそく今日発表してくださった方々の SNS をフォローしました。これからは、興味を持ったイベントにどんどん参加してみたいです。まずは、身近なイベントへの参加、そして大学院入学と青年海外協力隊への参加を本格的に目指していきたいです。皆さんの話をきいてさらにモチベーションが高まりました。国際協力に対してそんなに身構えず、時間のある今の学生のうちにどんどんチャレンジしていきたいと思います。
- ・ 自分は学校の授業でスポーツで社会貢献をするというテーマで活動しています。これに関わった話はなかったかと思いますが、たくさんの視点、考え方たくさん学ぶことが出来ました。助言もいただき、これからの活動に役立ちました。ありがとうございました。
- ・ 国際活動をしていく中で現地の人でも団体の人でも仲間になれて、増えていくことが活動のいいところだと今回の話で気づけました。
- ・ 今まで国際協力ときくと、大きくて立派で、今の自分には程遠い、狭き門の職業だというイメージでした。なんのスキルも才能も、海外の直接的な経験も無い私には無理だろうと無謀に思っていました。しかし今日のイベントで、国際協力とひとくちに言っても、すべてがハードルが高すぎることはないということと、自分にもできることが何かありそうだと感じ、希望が見えました。
- ・ 今まで海外協力にほとんど関わってこなかった、超入門レベルの私にも入りやすい雰囲気でした。
- ・ これからの世界情勢は、先行き不透明感が漂い始めているように感じる。とても難しい時代になってきた。そうしたなかで、飢餓や貧困に苦しんでいる人々が、この地球上にはまだまだたくさんいる。そうした人たちに支援を若い人たちが考え行動していただきたい。
- ・ ありがとうございました。いつもイベントへ参加しても 4 歳の息子に振り回され話をゆっくり聞けなかったのがオンラインは大変助かりました。親子向けの国際交流イベントにこれからも参加させていただき、どんな活動ができそうか考えていきたいです。
- ・ 各団体さんで、「ボランティア | 日体験会」があると国際協力に気軽に参加できる気がします。ただ、受け入れ団体さんの労力が大きくなってしまふことが予想されるため、実現は難しいかもしれませんが…。
- ・ JICAさんと協働されている事業の一つの形として、参考になりました。丁寧に企画されていて、楽しく参加させてもらいました。ありがとうございました。
- ・ 皆さんのお話を伺って、国際協力に向けて勇気を出してはじめての一步を踏み出すことが大事だと思いました。語学の不安等ありますが研修制度も整っているので前向きに検討したいです
- ・ 学校教育関係の NGO の話が聞いてみたいです。



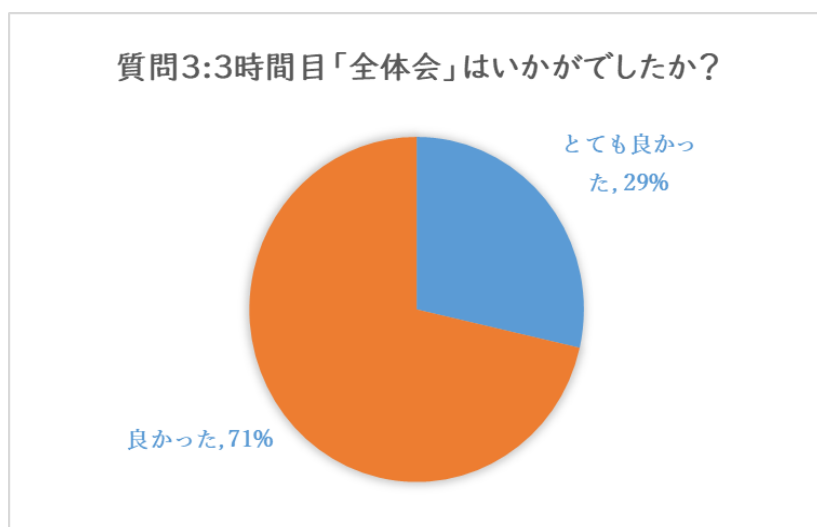
3、出展団体アンケート結果

出展団体に向けたアンケートを実施し、7 団体より回答頂いた。



質問2) 質問1の回答の理由を教えてください。

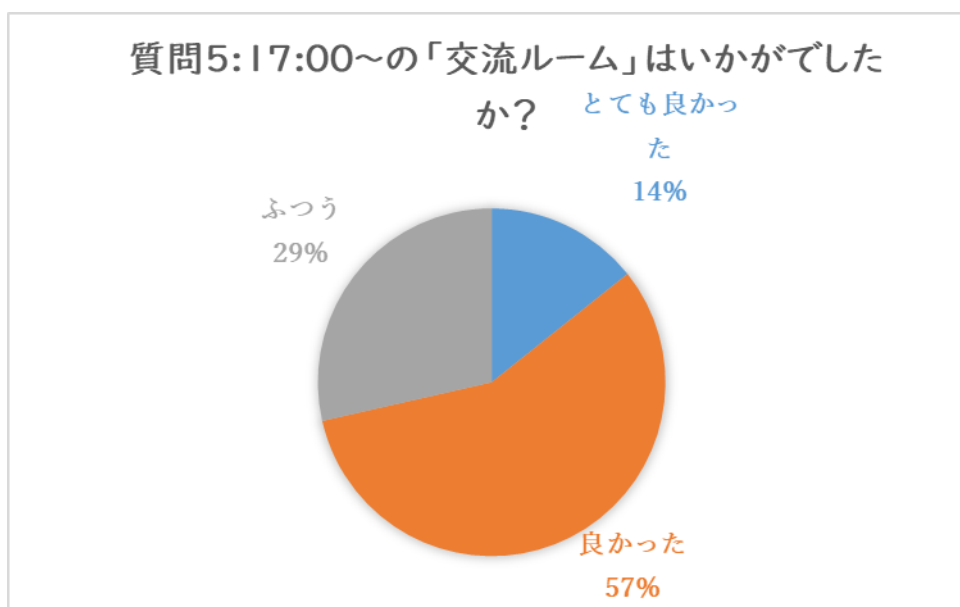
- ・ 弊団体の発表自身はアプローチを変えたため、内容についてはしっかりと分析が必要ですが、他の団体様の発表に対して、参加者の方々も興味関心が高まったのかなと感じました。
- ・ さまざまな活動をしている団体の話を聞いて、自分の視野が広がったように感じています。
- ・ 普段他団体の活動を聞く機会がないので、活動内容等知ることができとても良かったです。
- ・ 特にキャリア teens さんの活動紹介が素敵でした。
- ・ リアル開催の時は興味ある団体のブースを選んで話を聞くという形でしたが Zoom は参加者全員が全団体の活動を聞く形です。リアルの時の参加者さんは出会いの機会を無意識に狭めていたかも知れません。
- ・ 様々な団体の様々な取り組みや想いについて勉強する機会になりました。





質問4) 質問3の回答の理由を教えてください。

- ・ ほかの参加者の意見が聞けたり、私たちの団体について良く言ってくださる方がいたりして嬉しかったです。
- ・ 昨年も感じましたが、時間配分というか各々の発言をどのように引き出すかでより工夫が必要だと思いました。
- ・ 参加者の想いを聞き取り交流をはかるには時間が不足。
- ・ もう少し時間があると良かった。グループ全員の意見を聞く時間が足りなかった。
- ・ 時間配分ちょうど良かったと思います。



質問6) 質問5の回答の理由を教えてください。

- ・ ブレイクアウトルームへの参加が一人だったのでじっくりお話しできました。
- ・ 興味を持っていただけたようで良かったです
- ・ 1名の方のみであったが、当団体のマンスリーパートナー様とお話しし、後日事務所ボランティアに来ていただけました。
- ・ 参加者の方が来られなかったのは残念でした。
- ・ 何人が残っているのかが見えず、当会を訪問する方がいるのかも分からず待機を続けるのは不安でしんどいです。

問7) 交流ルームに参加した参加者の人数を教えてください。

アイキャン	1人
ル・スリール・ジャポン	1人
イカオ・アコ	1人
ホープ・インターナショナル開発機構	4人



セイブ・イラクチルドレン・名古屋	0人
キャンヘルプタイランド	1人
キャリア teens	0人

質問8) 本日のカレッジの感想やお気づきの点、また、今後の企画のアイデア等があればご記入ください。

- ・ 毎年開催し続けることで一人でも二人でも一般市民に国際交流、国際支援、共生といった意識づけができればと思います。毎年開催ありがとうございます。
- ・ 団体発表で時間がオーバーしてしまい大変申し訳ありませんでした。予定では1スライド1分程度と計算していたのですが、見積を間違えました。ご迷惑をおかけしました。
- ・ 全体会のグループに分かれての振り返りは離席中かどうか分からず待ち時間が発生したので、ルームに分かれる前に全員ビデオ ON にして見た目から判別できるようにしてもいいかもしれません。

4、アンケート結果の分析

本事業の企画書において、達成目標およびその指標について、以下のように記載している。

(以下、企画書より抜粋)

到達目標 を測る指標	<p>参加者および出展団体に対し、実施するアンケート結果が、以下のAおよびBの3点を満たしていること。</p> <p>A、参加者が参加前と比較し、国際協力の必要性や課題に対する理解が深まったかどうか。 1. 参加者によるアンケートのうち、1～2時間目(講義)について、「とても良かった」、「良かった」と回答した人が、回答者数全体の80%以上であること。</p> <p>B、参加者一人ひとりが、イベント後、具体的な行動に移すきっかけとなり得たかどうか。 2. 参加者によるアンケートのうち、「実際に活動に関わりたい、あるいはイベント等に参加したいと思う団体が見つかりましたか?」の質問に対し、「見つかった」と回答した参加者が、回答者数全体の50%以上であること。 3. 参加団体のうち「活動に参加を希望する人がいた」「イベント等に参加をしてくれそうな人がいた」と回答した団体が、参加団体数の50%以上であること。</p>
---------------	---

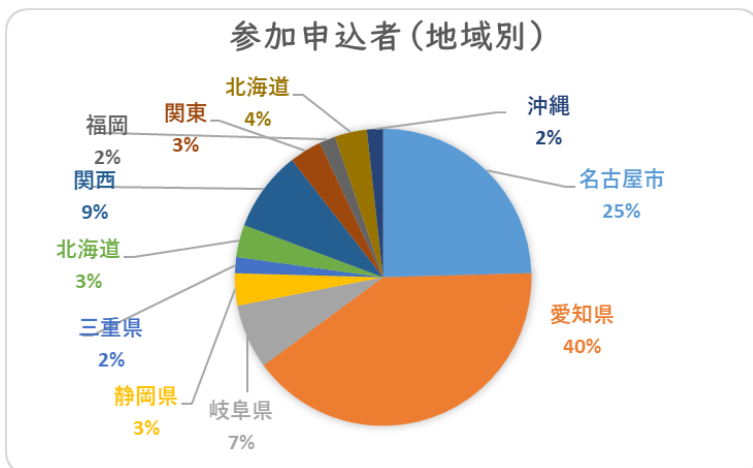
●到達目標の指標および参加者・出展団体アンケート結果について

- ・ 参加者アンケートでは、1時間目の講義について「とても良かった」、「良かった」と回答した参加者は合計100%、2時間目の団体紹介について「とても良かった」、「良かった」と回答した参加者は合計100%、ともに高い満足度を得た結果となった。よって、A-1の指標については十分達成し、参加者の「国際協力の必要性や課題に対する理解が非常に深まった」と言える。
- ・ 参加者アンケートでは「自分にもできることが何かありそうだと感じた」「国際協力に向けて勇気を出してはじめての一步を踏み出すことが大事だと思った」「興味をもった団体があり早速SNSをフォローした」などといった感想が見受けられた。さらに団体アンケートでは、カレッジ終了後にボランティアに来てくれた参加者がいたとの報告があった。よって、Bの指標については概ね達成し、具体的な行動に移すための情報を提供できたといえる。
- ・ 出展団体のアンケートにおいては、活動紹介のプレゼンについて「とても良かった」、「良かった」と回答した団体は100%で昨年より大きく上回った。コロナ禍で活動が停滞していた昨年と比べ、スタッフが現地を訪問して子どもたちの様子を伝えたりプロジェクトの進捗を伝えることができたこと、名城大学附属高等学校のキャリア teensのみなさんによる報告が参加者及び参加団体の刺激となり評価が高かったことが理由としてあげられる。
- ・ プログラム終了後の交流ルームは事前告知をしたにもかかわらず思ったより参加者が少なく、「とても良かった」、「良かった」と回答した団体は71%と今年の85%をやや下回った結果となった。一方、少人数でじっくり話ができたとの声もあがった。



番外編～ 参考までに、アンケートでは設置していない項目（申し込みデーター）を 2 点追記し、分析しました。
 （但し、当日キャンセル者を含む）

1. 住んでいる地域はどこですか？

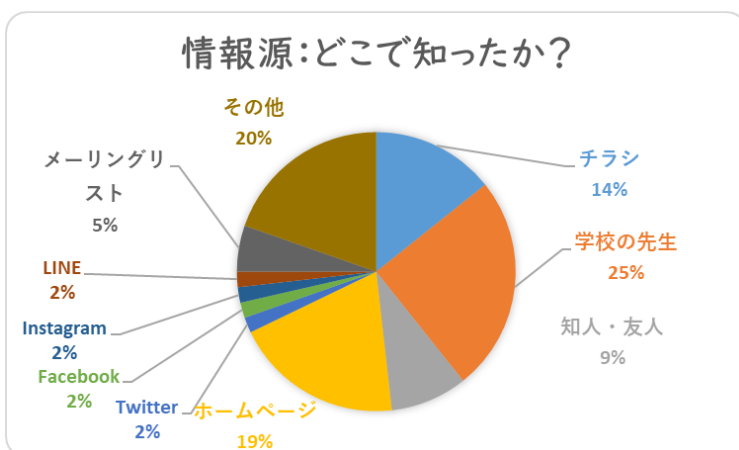


▼77%は中部地域から

オンラインということもあり、関西、関東など遠方からの参加者も目立ち、北海道や沖縄からの申込みもあったが、名古屋市と愛知県を合わせると 65%が愛知県内、岐阜県、三重県、静岡県 の 4 県を合わせると 77%であった。

遠方より集まりやすいオンラインイベントにもかかわらず、中部エリアを主な対象地域としていた目標は十分に達成できたといえる。

2. 何の媒体でイベントを知りましたか？



▼48%がアナログ情報（チラシ、知人、学校）を經由

オンラインイベントであり、IT 化、しかもオンラインイベントとはいえ、知人・友人、チラシ、大学・高校・中学などアナログな情報媒体が合わせて 48%と半数近くを占めていた。

10代以下は学校の先生や学校にあったチラシを見ていることから、若い世代ほどアナログ情報を信頼する傾向にあるともいえる。

5. 今後に向けての課題・提案や運営上の工夫

●当日について

- 参加者数は 60 名。1つの中学校の先生のアカウント 1 つで複数の生徒が参加をしているパターンもあった。名前変更ができない参加者が多く見られたので出欠確認が難しかった。
- 若年層だけではなく、オンラインに慣れてきたためか、年配の方の参加も増えてきた。
- 1 時間目と 2 時間目はブレイクアウトルームを使用しなかったため、ロスタイムは生じなかった
- 長時間に及ぶため、スタート前や休憩時間、終了時間を活用し、動きがあるよう、案内を動きと音声があるパワーポイントのプレゼンテーション機能を使い、参加者の継続参加を促すよう工夫を行った。
- 全体会のブレイクアウトルームの時間が短いという声が多かったのもう少し長くするといいかもかもしれない。
- プログラム終了後に交流ルームを設けた。参加者の満足度が高い一方で参加者数が少なく、もったいなかった。



- ・ 運営事務局側に ZOOM 操作補佐をつけることができたので、スタッフは進行に集中することができた。

● 全体を通じて(今回の特徴、実施団体としての成果と課題を含む)

- ・ 今回の特徴としては、高校生・大学生が多かった昨年度に比べ、オンラインイベントに慣れてきた年配者の参加者も目立ち、年代が幅広かったこと、オンラインにもかかわらず8割弱の参加者が中部地域からの参加であり、昨年度よりも中部地域からの参加が増えていることが挙げられる。また JICA 側のゲストが久しぶりに青年海外協力隊出身であったことから青年海外協力隊で JICA 職員というキャリアに関心を持つ参加者が多かったこと、多文化共生分野のゲストを招き、その反響も大きかったことが全体および交流ルームの様子から挙げられる。実施団体としては、終了後に出席団体やイベントを学生に広報して下さった教員からカレッジの参加者が行動している様子などを耳にし、学んで終わりだけではない行動に結びつくことができる事業として、改めて効果の高さを実感している。課題としては、団体紹介と交流ルームを切り離さず、セットにした方がより交流ルームの参加者が増え、「学び」から「行動」に結び付けられたと考えられる。(次回への提案にて後述)
- ・ 他のイベント運営者からも、カレッジの参加者層は、他のイベントの参加者と比べてモチベーションが高い人が集まりやすいと言われている。「学び」と「行動」を結びつけられるような構造になっているイベントであり、継続することにより認知度が高まってきているからではないだろうか。他地域からの参加もあり、全国的にも希少なイベントであることと考えられる。今後も本イベントの継続が望まれている。
- ・ 昨年に引き続き、JICA 担当者と相談しながら進めていくことができ、契約上では主催者と受託事務局という形ではあるが、本イベントの創設当初のように、同じ目標に向かって、ともに持てる知恵と力を合わせる「協働」事業であることを実感することができた。

● 次回に向けて

- ・ アンケートでは、全体会での話し合いの時間が足りないという声が複数あった。そのため、次回は全体会での話し合いの時間をもう少し長めに設けたほうがよい。(以前のカレッジでは全体会の時間が長いという意見が出たため短くしたが、グループ内の人数とのバランスも考慮し、時間を考えた方がよい)
- ・ アンケートでは、全体会で「グループに分かれての振り返りは離席中かどうか分からず待ち時間が発生したので、ルームに分かれる前に全員ビデオ ON にして見目から判別できるようにしてもいいかもしれません」との意見があった。カメラを ON にすることを強制できないが、次回以降、オンライン開催する場合は、全体会が始まる前に司会から可能な範囲でカメラを ON にするよう声をかけるよう検討してはどうか。
- ・ アンケートでは、「ボランティア | 日体験会」があると良いという意見があった。時間的に同日内に組み込むことは難しいが、各団体にてボランティア体験ができる機会をわかりやすく明示してもらうよう事前に伝えてはどうか。
- ・ 「交流ルーム」を最後にすると参加者が減少するため、団体紹介の直後のプログラムに組み込んだほうが参加者、出席団体にとってより効果的になると思われる。
- ・ 募集段階でオンライン一本に絞ったことにより、参加者や出席団体、ゲストが安心して参加することができ、運営側もリスク管理にかかる時間を質の向上に費やすことができた。ハイブリッド型であれば、対面とオンラインとの準備に倍の労力がかかり、ハイブリッドを実施する業者などの外注費もさらに必要になったと考えられる。今後も感染等によるリスクが考えられる場合は今回のように募集段階でオンラインまたは対面(人数制限を行う必要あり)のどちらかに絞った方が、質の向上に集中できる。

以上